

毎日が楽しくて 飽きることがない

東京都出身の松島さんは、大学で日本語教育に携わりながら、東京と蒲郡を行き来する二拠点生活を送っています。

蒲郡を訪れたきっかけは、東京での生活の中で気持ちが落ち込み、環境を変えたいと思ったことでした。「とりあえず知らない場所に行ってみよう」と思い、見つけたのが蒲郡のゲストハウス。初めて訪れた夜、「竹島」と書かれたアーチをくぐったとき、「ここで人生が変わるかもしれない」と感じたといいます。最初は「何も無いな」と思ったものの、翌日、海を眺めながら過ごすうちに、「ここ、すごくいい場所かもしれない」と思ったそうです。その後、ゲストハウスのオーナーと意気投合。パートナーとなったことをきっかけに蒲郡に通うようになり、現在はゲストハウスの営業を手伝いながら、週の半分を蒲郡で過ごしています。



2022年 東京⇄蒲郡
松島 調さん

蒲郡での暮らしについて、「毎日が楽しくて飽きることがない」と話します。まちはコンパクトで、海や山が身近にあり、食べ物もおいしい。また、できることを選択肢が多く、日常そのものが豊かだと感じているといいます。「誰かがつくったものを消費するだけでなく、自分がプレイヤーになって能動的に参加できる場があるのがおもしろい」と、地域のイベントや活動にも積極的に関わっています。その中で感じたのは、人と人の距離の近さでした。「初対面でも感情や思考を共有するような人間的な会話が自然とできるのがおもしろい、東京とは全然違う」と感じているそうです。



また、蒲郡の魅力について、「三河木綿は蒲郡が誇れる文化の1つ」と話します。元々繊維に興味があった松島さんは、手織場を訪れたことをきっかけに、その魅力に引き込まれていきました。「糸紡ぎや機織りをやってみたらおもしろくて、パートナーと通うようになりました」と話します。歴史ある産業でありながら、まだ十分に知られていないことに、もったいなさも感じているそうです。

蒲郡でのお気に入りの過ごし方は、海や山を感じながら1日を過ごすこと。「蒲郡は人と人の距離が近く、付き合いが表面的ではない。何かをやりたいと思えば、人が集まって実現できる。そこが1番の魅力です。」